

教育研究協議会要項

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部附属静岡中学校 公開日: 2024-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000471

教育研究協議会要項

1. 期 日 令和5年11月2日(木)
2. 会 場 静岡大学教育学部附属静岡中学校
3. 後 援 静岡県教育委員会・静岡市教育委員会
4. 研究主題 学びの自覚 ―子どもが見いだす「教科の本質」―
5. 日 程

8:50	9:10	9:30	9:40	10:00	10:20	11:10	11:30	12:20	13:10	14:30	14:45	16:15
受付	全体発表	休憩	事前説明	移動	公開授業第1時	移動	公開授業第2時	昼食	教科別研究協議	移動	はごろも『夢』講演会	
								学校保健受付				
									12:50 13:10			

◇全体発表(各教科ごと控室にて)

主 題 学びの自覚 ―子どもが見いだす「教科の本質」―

研修部長 植木 さつき

◇はごろも『夢』講演会(体育館)

テーマ 「子どもにとって教科とは何か」

上智大学総合人間科学部教育学科 教授 奈須 正裕 先生

6. 公開授業

第1時 10:20~11:10

教科	学級	題 材 名	授 業 者	授業教室
国 語	3 A	『私』―読みの視点をもって物語を味わおう―	井 上 由 貴	3 A 教室
社 会	3 C	ベーシックインカムから考える ―すべての人にとって豊かな社会を実現するために―	井 村 和 仁	3 C 教室
数 学	2 B	どうする乗り方 ―エスカレーターは止まる? 歩く?―	西 谷 聡一郎	2 B 教室
音 楽	1 A	旋律を味わい創作する ―教会旋法の曲を通して―	兵 庫 廣 多	音 楽 室 社会科教室
美 術	3 B	校内サインデザインプロジェクト ―魅力的なサイン計画を提案しよう―	萩 原 彰 彦	美 術 室
家 庭	1 D	食の大切さ ―日常と災害―	平 林 亜希子	1 D 教室
英 語	1 B	How Can We Understand Each Other?	吉 田 龍 弘 Matthew Coughlin	1 B 教室

第2時 11:30~12:20

教科	学級	題 材 名	授 業 者	授業教室
国 語	2 C	「言葉」をみつめる ―「見ること」と「言葉」の関係性を考えること、映画の音声ガイド制作をすることを通して―	若 林 卓	2 C 教室
数 学	3 A	すごいぜ 三角形! ―四角形の相似条件を考える―	菊 野 慎太郎	3 A 教室
理 科	2 D	発熱剤の不思議	田 島 優 介	第1理科室
保健体育	1 C	運動のメカニズムを解き明かせ	勝 野 由志雄	1 C 教室
技 術	3 D	お悩み解決システムの開発	松 原 佑	作 業 室
英 語	2 A	You and Me in the Group Discussion	戸 崎 紗 絵 Bjorn Christenson	2 A 教室

7. 教科別研究協議

教科	助言者 (氏名・所属)	協力委員 (氏名・所属)	共同研究者
			静岡大学
国語	藤田 華枝 静岡市教育センター	藤田 伸浩 静岡市立清水第四中学校 高尾 悠 藤枝市立高洲中学校	大塚 浩 坂口 京子
社会	磯山 恭子 国立教育政策研究所	黒柳 友義 静岡市立長田南中学校	西野 肇志 佐藤 正志
数学	岡部 貴史 静岡市教育センター	櫻井 辰徳 牧之原市立榛原中学校 河守 淳太 静岡市立清水袖師中学校	裕元 新一郎 谷本 龍二
理科	真井 克子 国立教育政策研究所	小永井 俊樹 富士市立吉原第三中学校 小谷 武士 静岡市立清水第八中学校	郡司 賀透 内山 秀樹
音楽	河合 紳和 国立教育政策研究所	増田 有紀 富士宮市立富士宮第一中学校	後藤 友香理 東屋敷 尚子
美術	池田 しのぶ 静岡市教育センター	榎 真依子 静岡市立東中学校	芳賀 正之 川原崎 知洋
保健 体育	殿岡 史裕 静岡市教育センター	大竹 悠介 裾野市立富岡中学校	野津 一浩
技術	望月 勇紀 静岡市教育センター	仲嶺 春平 静岡市立籠上中学校	紅林 秀治 室伏 春樹
家庭	友田 未由紀 静岡市教育センター	岩鼻 純子 静岡市立清水第七中学校	小清水 貴子
英語	入之内 昌徳 国立教育政策研究所	菊地 綾夏 静岡市立高松中学校	矢野 淳 クレメンツ・ピーター
学校 保健	渡邊 陸美 静岡市教育委員会事務局	中村 安里 静岡市立西奈小学校	鎌塚 優子

※敬称は省略させていただきました。

8. 講演会講師紹介

<p>上智大学総合人間科学部教育学科 教授 奈須 正裕 先生</p>
<p>上智大学総合人間科学部教育学科教授。 東京大学大学院修了、博士（教育学）。専門は教育心理学、教育方法学。 神奈川大学助教授、国立教育研究所教育方法研究室長、立教大学教授などを経て平成17年より現職。 新学習指導要領に関わっては、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会、教育課程企画特別部会、総則・評価特別部会、幼児教育部会、中学校部会、生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ、カリキュラム・マネジメントの在り方に関する検討会議、小学校段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成とプログラミング教育に関する有識者会議、2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会等の委員として、重要な役割を担う。 主な著書に「個別最適な学びの足場を組む」(2022、教育開発研究所)、『「資質・能力」と学びのメカニズム」(2017、東洋館出版社)、「次代の学びを創る知恵とワザ」(2020、ぎょうせい) など多数。</p>
